

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

① 第2期宇治市観光振興計画全般について

No.	意見の内容	宇治市の回答・考え方	修正
1	<p>P.5、6 「宇治市観光動向調査の結果…」を「令和7年度宇治市観光動向調査の結果…」に修文してはどうか。</p>	<p>今回の調査は令和6年から令和7年にかけて実施しており、P.1に「令和6年から令和7年にかけて実施した宇治市観光動向調査」とを記載しています。それ以降については宇治市観光動向調査と省略させていただいております。</p>	
2	<p>近年の観光客増加に加え気温の上昇などによって、水位の下がった宇治川右岸の護岸や宇治橋西詰の護岸で水辺に近づく観光客が目立つようになってきており対策が必要に感じている。アンケートは観光客に向けて行われているが、パブリックコメントにとらわれず市民に対する観光客の動向についてアンケートを実施すれば、危険な行動・箇所や思わぬ場所での迷い込みなどについて対策がとれ観光客の安全にもつながるのではないかと。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、今後調査の参考にいたします。宇治市といたしましても引き続き関係機関等と連携し安全対策の啓発に努めてまいります。</p>	
3	<p>P.8 ②観光ルートの定番化 滞在時間の短さ・観光ルートの定番化といった課題を改善していくとしていながら、「中宇治地域」以外の周辺観光のエリアが「黄檗地域」「小倉地域」となっているのは、不十分ではないか。例えば、ワーキングで「黄檗地域」はコンテンツ不足との指摘があるが、そもそも範囲が狭いので当然だと思う。萬福寺周辺以外の五ヶ庄や木幡にも、社寺や歴史的遺産は存在しており、それらが検討対象になっていないのは疑問である。「黄檗地域」ではなく「東宇治地域」として検討するべきではないか。（同様に、「小倉地域」ではなく「西宇治地域」として検討するべきではないか。） ※東宇治地域の社寺・文化財・歴史遺産等の例：万福寺、許波多神社（五ヶ庄、旧跡、木幡分社）、松殿山荘、藤原家陵墓群、二子塚古墳、旧奈良街道（古道）、隠元橋からの眺望（太閤堤の原形）、黄檗公園付近からの眺望（織田信長槇島城の戦い本陣から槇島城を望んだ眺望）・木幡池（太古の大池の名残）など</p>	<p>P.8の観光の課題②観光ルートの定番化では、これまで周遊観光促進において取り組んできた一例を記載しております。P.21の3-（1）市内周遊性の向上においても、周遊観光促進は重点項目としており、引き続き市内の様々なエリアのにぎわい創出に取り組んでまいります。</p>	

4	<p>P. 8 ③観光地美化 宇治橋周辺にゴミ箱を複数設置してほしい。道路が汚いから。</p>	<p>観光客をはじめ市民や事業者の皆様から、ゴミに関する様々なご意見をいただいているところであり、宇治市としてもゴミやトイレを含めた観光地美化は観光の課題として認識しております。新たにP. 26の4-(4)「市民生活と調和のとれた観光地づくり」をアクションプランに追加し、誰もが快適に過ごせる上質な観光地を目指し取組を進めてまいります。</p>	
5	<p>P. 44 ワーキンググループでの主な意見 ワーキンググループ第1回の意見のなかで「レンタサイクルや電動キックボード、人力車の復活」と共に「歩いて楽しむ観光を大切にするとある。人力車が復活したが橋の上など見通しの悪い場所や観光客が集まるところでの停車や滞留が発生しており、一般通行人の往来を阻害しているケースが見受けられる。基本方針3で「市民によるもてなし」を期待しているが、市民生活を阻害する事業になっている。他にも店舗前での路上駐車や客の滞留による通行障害なども見受けられるため、歩いて楽しむ観光には多くの対処が必要と感じる。</p>	<p>P. 24の観光戦略4「おもてなしのまちづくり」の各施策で快適に観光できる環境の整備について記載をしております。いただいたご意見を踏まえ、誰もが安全に安心して快適に過ごせる観光地を目指し、取り組んでまいります。</p>	

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

② 中期アクションプランについて

No.	意見の内容	宇治市の回答・考え方	修正
6	<p>P. 22 3-(3) 広域観光の推進 「宇治市や宇治市観光協会が連携協定を結ぶ地域」とは具体的にどこかを追記してはどうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、注釈として追記いたします。</p>	<p>有</p>
7	<p>P. 26 4-(4)⑤「市民生活と調和のとれた観光地づくり」 「オーバーツーリズムに対する取組」を追記してはどうか。</p>	<p>宇治市では観光客が一部のエリアに集中して混雑するなどオーバーツーリズムの兆候があります。このため、住民と観光客双方が快適に過ごせるよう持続可能な観光地を目指していく必要があります。新たにP. 26の4-(4)「市民生活と調和のとれた観光地づくり」をアクションプランに追加して取組を進めてまいります。</p>	
8	<p>P. 20 2-(4)①「宇治を舞台にした作品を通じた魅力発信」 宇治市はこれまでから「源氏物語」を観光資源と位置付けて観光振興に活用してきたが、この平安時代の書物やその世界を描いた絵巻が観光資源として公式に定められるのであれば、平成・令和時代の「響け！ユーフォニアム」の小説やアニメーションも、関係各所に許諾を得たうえで公式に観光資源として定め、源氏物語と同様に、積極的に活用していくべきではないか。 ※今や、日本のアニメーションは世界的なポップカルチャーとなっており、ユーフォの聖地が多数点在する宇治にも、国内外から世代を問わずファンが聖地巡礼に訪れ続けている。「ユーフォ」は、京アニの優れた作画力で宇治のまちが写実的に描かれていることから、聖地巡礼時の感動が特に素晴らしいものとなる。観光振興の有力な方策のひとつにロケ誘致があるが、その観点からみれば、「ユーフォ」は、何ら誘致することなく出来上がった、現代の優れた文学・絵巻物であり、その舞台となった宇治市にとっては、まさに奇跡の宝物といっても過言ではない、キラークンテンツといえる。</p>	<p>P. 20の2-(4)①「宇治を舞台にした作品を通じた魅力発信」において、各作品と連携した宇治の魅力発信の必要性について記載しており、今後も積極的に連携し取り組んでまいります。</p>	

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

9	<p>P. 20 2-(4)①「宇治を舞台にした作品を通じた魅力発信」 顔の判別ができない着ぐるみの着用者が住宅街や一般の観光客の目に触れる場所を徘徊しており、SNS上でも不安の声がある。同じくSNS上では、いわゆる「痛車」による夜間の学校周辺等での路上駐車や商業施設の駐車場を一部占拠しているのも見受けられる。これらは防犯上の懸念があるように感じられるため、警察や関係企業と連携して注意喚起をするなど安心安全を守る取り組みが必要。また大吉山や宇治公園など河川敷での楽器演奏についても議論されておりガイドラインが必要と感じる。</p>	<p>P25の4-(3)②「安全な観光地づくりの推進」 において記載しておりますとおり、文化の違いを尊重し、誰もが安心して快適に観光できる観光地づくりを進めてまいります。また防犯・騒音等については関係部署・関係機関と連携し、取り組んでまいります。</p>	
---	--	--	--

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

③ 宇治市観光動向調査について

No.	意見の内容	宇治市の回答・考え方	修正
10	<p>P. 9 2-3 第2期宇治市観光振興計画前期アクションプラン総括 アンケート結果において日本人の自家用車への来訪が25.6%と低い数値の状況で、満足度が日本人で59.1%、外国人で88.1%と高い数値が出ている。 その中で、P. 9の『交通状況（道路の渋滞等）』の記載について“等”にどのようなものが含まれているのか、もう少し詳しい分析を掲載してはどうか。すでに近年の渋滞調査ではピーク時に比べ、大幅に渋滞時間も渋滞長も減っており、これ以上渋滞対策を行っても、満足度の大きな改善につながらないと感じる。</p>	<p>今回の観光動向調査では、詳細について調査していませんが、現在宇治市では、観光客の歩行者動線の課題を整理し、歩行者の安全確保及び更なる賑わい創出を目指し検討を行っております。 引き続き、訪れた方が快適に過ごせる観光地づくりに取り組んでまいります。</p>	
11	<p>P. 39（資料8）観光満足度【日本人】、P. 39（資料9）観光満足度【外国人】 資料3では外国人の多くが公共交通機関を利用し宇治まで移動しており、資料10の市内移動手段では徒歩が多くなっている。資料8・9の観光満足度の評価項目で「交通状況（道路の渋滞等）」とあるが、道路の渋滞等では歩行者の実態を把握できていないのではないか。道路の渋滞等と大きな括りではなく、「歩行中の安全性」などの、歩行者に特化した細かい調査を行うべきではないか。</p>	<p>資料10は複数回答で実施したものです。「徒歩」の割合が半数を占めることに加え、前回調査と比較して主要公共交通機関や車での移動者の割合が増えていないことから徒歩圏内による観光がメインであると評価しております。いただいたご意見は、今後調査の参考にいたします。</p>	
12	<p>P. 8 ②観光ルートの定番化(P. 41資料10) 市内移動手段の回答は複数回答で実施されたものか。複数回答では、評価が少し変わるのではないか。</p>	<p>資料10は複数回答で実施したものです。「徒歩」の割合が半数を占めることに加え、前回調査と比較して主要公共交通機関や車での移動者の割合が増えていないことから徒歩圏内による観光がメインであると評価しております。いただいたご意見は、今後調査の参考にいたします。</p>	

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

④ 図・グラフについて

No.	意見の内容	宇治市の回答・考え方	修正
13	<p>P. 5 ②地域別/国籍別、P. 32 (資料2) 地域・国籍 「近畿圏以外では東京都、愛知県、神奈川県、千葉県の順で…」と記載されているが、P. 32の資料2では内訳が記載されていないので、P. 32に追記してはどうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、追記いたします。</p>	<p>有</p>
14	<p>P. 9 第2期宇治市観光振興計画前期アクションプラン総括 図の期待度及び満足度の数値はどのように算出されたものか。</p>	<p>図の算出方法についてですが、宇治市観光動向調査（日本人）の満足度・期待度の結果の各項目の割合(%)に下記点数を乗じた合計になります。 満足度（縦軸）：「とても満足」を5点、「満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「不満」を2点、「とても不満」を1点。 期待度（横軸）：「大いに期待していた」を5点、「期待していた」を4点、「どちらでもない」を3点、「期待していなかった」を2点、「まったく期待していなかった」を1点。 上記内容をP. 9に追記いたします。</p>	<p>有</p>

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

⑤ その他

No.	意見の内容	宇治市の回答・考え方	修正
15	<p>宇治川ゆかりの歴史的人物である菟道稚郎子の観光コンテンツとしての再評価と教育・学習への活用について 宇治の地名の由来である応神天皇の皇太子・菟道稚郎子は宇治川沿川に古墳や宇治上神社などのゆかりの地が残るにもかかわらず、観光や学習コンテンツとして十分に活用がされていません。悲劇性に偏らない解釈のもと、2026年の市制施行75周年の大きな節目を記念して宇治の歴史的原点を伝える人物として再評価し、観光コースの新設、観光キャラクター開発、既存観光施設（茶つな等）での小規模展示や市内小学校や市民向け地域学習の新たなコンテンツとして段階的に展開することを提案する。</p>	<p>P. 20の2-(3)「社寺等の歴史資源との連携」において記載しておりますとおり、それぞれの持つブランド力やストーリー性を活かした取組を進めてまいります。</p>	
16	<p>朝霧橋を渡る際に観光客から100円の「観光協力金」の創設について 宇治市が所有・管理する朝霧橋は平等院から宇治上神社を経て、源氏物語ミュージアムに至る世界遺産と源氏物語宇治十帖を結ぶ宇治市の象徴的な観光動線上にある。宇治市を訪れた観光客は令和6年に614万人と過去最多を記録したが、ほぼ全員が朝霧橋を渡ったはず。この観光客から「観光協力金」として1人100円の寄付をお願いする。すぐそばに宇治橋があるので強制的な徴収感はなく、利用者には記念品ともなるトークンを100円支払い時にプレゼント。もちろん、市民と修学旅行生は無料。私が考えている徴収法については、紙幅の都合上割愛するが、お尋ねいただければ費用も安価で合理的な方法をお伝えできる。宇治市の観光関連予算は令和6年度に3億7900万円だが、朝霧橋観光協力金に観光客の2人に1人が協力すれば3億円を超える新たな財源が生まれ、少子化対策などに活用することも期待できる。</p>	<p>関係部署と連携し、今後も引き続き財源確保のあり方を検討してまいります。</p>	
17	<p>情報発信については他の市町村の観光協会等と比べてもホームページの情報量は少なく、SNSの発信も弱いように感じる。特に年中行事に関しては大幣神事など魅力的なものが多いにも関わらず、観光協会のホームページ上には情報はなく、寺社からの発信もない。そのため正確な時間がわからなく市民にさえも届いていないように感じる。情報が分散しており情報を拡散しようにも情報元が不正確なので、正確な情報を前もって早く大々的に発信できるような集約されたウェブサイトやSNSの運用が必要と感じる。</p>	<p>関係団体と連携し、引き続き効果的な情報発信に努めてまいります。</p>	

パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料2

18	奈良と京都の中間地点で歴史的価値観が人々とともに、様々な形を育て現在に至っていると 考えている。 これからの宇治の変遷に興味を強く持っており何等かでお役に立てれば幸いと考えている。	古くから継承されてきた豊富な歴史遺産や文化を活かした観光地づくりを進めるにあたり、市民・事業者など様々な主体と連携・協働し、推進します。	
----	--	--	--